園だより

令和４年８月１日

社会福祉法人　新田保育園
園長　大西　陽子

『感染予防と育ちの保障　　～未来に向かって～』

コロナ禍での保育園。保育者が子どもたちと給食を食べることができなくなって、2 年以上の時が流れました。コロナ前は、2 才児クラスの後半から、子どもたちと一緒に食事をとっていたように思います。保育者が「おいしい！」と食べると、それだけで子どもたちは真似をしてよく食べたなぁ、おかわりが進んだことを懐かしく思い出します。今日も保育者は子どもたちから離れ、廊下、ウッドデッキ、ホールで（職員室は狭いので、二人以上が一緒に食事をすると濃厚接触者になります）あわてて一人で給食を食べています。保育者が個別で食事をすることを想定して、園舎を設計していません。保育者が人間らしく給食を食べることは、コロナ感染予防のために、犠牲にしています。

5 月実施した年長児の合宿では、保育者と園児は寝食を共にし、お風呂にも一緒に入ります。子どもたちは「先生のお口見たよ！」と大発見をしたように発言しました。「あぁそうか、2 年以上子どもたちに口を見せていない」その言葉はぐさりと胸に刺さりました。

7 月に園で開催した「前期保育総括会議」で、※保育者は、子どもたちに発語の遅れ、発音の不明瞭が起きていると気づいています。人の発達は、模倣から始まります。模倣すべき口が見えないのですから、起こるべきして起こっている事実としてとらえました。しかし、今回の総括会議は、久しぶりにリモートではなく対面で開催することができました。感染予防に努めながら、保育者は子どもの姿を語り、クラス集団の様子を語ります。保育者としての意図を、子どもたちに伝えた言葉を、保育実践として語ります。それを聞いた別部署の保育者が、別の角度から質問し、分析し、アドバイスをしあいます。リモートでは得られないライブ感。「そうそう、これこれ！」やっぱり保育園の職員会議は、こうじゃないと。

毎日の保育給食、職員会議もコロナ感染予防最優先と、子どもの育ちの最優先は相反しています。一旦立ち止まり、感染予防の専門家、子どもの発達の専門家、保育現場で、科学的検証実験を行い、何をどこまでやるのが予防と成長発達の両方の保障ができるのか、知恵を絞って考えることが大人の責任なのではないでしょうか。

ウクライナや世界の紛争を思うと、私たちの生活はしあわせです。しかし、あの国の大統領もこの国の元首相を殺害した容疑者も、しあわせな大人たちの愛情を受け、仲間と共に育ちあう子ども時代があれば、違う人生、違う世界情勢があったのではないか。子どもの毎日は、子どもらしく仲間と楽しく遊べる日々を。大人も人として尊重し合い、しあわせに過ごすことが、未来の平和に繋がっていくと信じています。

今日も、園に子どもたちの歓声が響いています。保育者は子どもたちに向き合っています。コロナに負けないで、子どもたちの毎日を紡いでいきましょう。

※子どもたちに発語における口の動かし方、食事の時の口、舌の動かし方（種を出す、骨を出す等）、食事のマナーをふくめ、大人の姿を見せて伝えることは、コロナ禍では同居の家族の方にしかできない営みになりました。ご家庭の生活の営みの中で、意識的に見せてください。また、生活全般、食事の時、お子さんは利き手でない方の手を使用していますか？補助としての役割がある利き手ではない方の手を、使っていない姿が見られます。がみがみ言わないで、さらりと「こっちも使うと便利だよ」と伝え「上手！」と認めてあげてください。

●栄養士清藤瑠梨は 8 月 20 日より、産休に入ります

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
８月	頭シラミ確認ん														避難訓練		健診０・３歳							プール納め	運動会集会（庭）					誕生会（写真撮影）	運動会集会（公園）